

科目区分	共通科目	聴講	不可		
授業科目名	保健医療組織管理学特論	科目履修	可		
科目番号	DN0001	クラス番号	DN1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・2年次 前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	柏倉健一	その他			
担当教員	柏倉健一 上原真澄 高橋康幸 五十嵐博 石原美和				
授業の概要	<p>本研究科は、保健医療機関の組織運営に対等な立場で参画し、多職種と連携しながら保健医療サービスの維持・向上に向けて組織運営に取り組むことのできる人材育成に必要な科目として、保健医療組織管理学特論を提供する。</p> <p>医療機器の高度化、患者ニーズの多様化、チーム医療の推進など、大きく変化している医療を取り巻く環境に対応するため、看護職者・診療放射線技師がチーム医療の一員として自身の専門分野についての深い理解と独創性を発揮できる能力を養う。また、分野を超えた俯瞰力、合意形成ができるコミュニケーション力、合意の結果を形にできる行動力といった能力の修得を目指す。さらに、チーム医療の中で看護部門・放射線部門を統括するリーダーとしての資質と知識を備える目的の一環として、組織の管理運営について検討する能力を修得する。</p>				
学 科 目 的	チーム医療における各種医療専門職の役割を理解し、チーム医療の中で看護部門・放射線部門を統括するリーダーとしての資質と知識を修得する。				
学 科 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療を取り巻く環境の変化について具体的に理解する。</li> <li>2. チーム医療の一員としての能力と役割について検討する。</li> <li>3. チーム医療の中で各部門を統括するリーダーに必要な組織の管理運営について検討する。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当 柏倉 上原 高橋 五十嵐 石原
	1	わが国の医療政策、医療制度、保健医療システム	講義	講義のテーマに関する参考資料の収集と精読	
	2	欧米諸国の医療制度	講義		
	3	医療分野の法体系	講義		
	4	医療経済学、日本の国民医療費	講義		
	5	病院財務関係論 1	講義		
	6	病院財務関係論 2	講義		
	7	医療専門職と病院組織	講義		
	8	組織の管理運営、マネジメント論	講義		
	9	組織運営能力の考察、リーダーシップ論	講義		
	10	チーム医療と看護職者・診療放射線技師、各職種の専門性	講義		
	11	病院組織運営に関連する文献の輪読 1	演習 (発表・討議)	文献検索と精読	
	12	病院組織運営に関連する文献の輪読 2	演習 (発表・討議)	文献検索と精読	
13	病院組織運営に関する課題の検討	演習 (グループワーク)	討議資料の作成		

	14	課題の発表準備	演習 (発表・討議)	発表準備	
	15	課題発表と討論	演習 (発表・討議)	討議資料の作成	
評価方法	発表1回（20%），討議4回（80%）				
参考書 参考文献等					
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。				
備考					

科目区分	専門科目	聴講	不可		
授業科目名	看護政策管理学特論	科目履修	可		
科目番号	DN0002	クラス番号	DN1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次・2年次 前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	巴山玉蓮	その他			
担当教員	巴山玉蓮 石原美和				
授業の概要	<p>本研究科は、保健医療機関の組織運営に対等な立場で参画し、多職種と連携しながら保健医療サービスの維持・向上に向けて組織運営に取り組むことのできる人材育成に必要な科目として、看護政策管理学特論を提供する。</p> <p>看護管理全般、看護行政または保健医療福祉政策および社会情勢を考慮し、現在または未来の看護政策管理学の在り方を追求する。また、社会のニーズに対応した看護サービス提供システムの開発・維持・変革に向けた能力の開発を目指す。具体的には、組織運営における様々な問題を明確にするために、関連する概念や理論と看護政策管理学に関する研究方法論について理解を深める。また、組織運営への参画や看護サービス提供システムの開発・維持・革新に向けた看護管理を実践するための方法について理解を深める。さらに、看護政策管理学に関する知識や国内外の研究成果を用いて、看護サービス提供システムの開発・維持・革新および組織運営に関する方策を検討する。</p> <p>学生は、これらのことを通して、保健医療サービスの維持・向上に向けて組織運営に取り組むことのできる能力を修得する。</p>				
学 科 目 的	看護実践現場の問題を多角的に検討するとともに、看護サービスを提供する環境の改善に向けたシステムの開発・維持・変革に資する方策を検討し、保健医療サービスの維持・向上に向けて組織運営に取り組むことのできる能力を修得する。				
学 科 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践における看護サービス提供上の問題を明らかにする。</li> <li>2. 問題解決に活用可能な看護政策管理学に関連する概念および理論を検討する。</li> <li>3. 組織運営における様々な問題の解決に向け、看護政策管理学に関する概念および理論や国内外の研究成果を用いて、看護サービス提供システムの開発・維持・変革および組織運営に関する方策を検討する。</li> <li>4. 1. 2. 3. を通して、保健医療サービスの維持・向上に向けた組織運営のあり方について探求する。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	看護政策管理学に関連する概念及び理論 1)クライアント主体のマネジメント論、 リーダーシップ論	講義		巴山 石原
	2	看護政策管理学に関連する概念及び理論 2)コミュニケーション論	講義		
	3	看護政策管理学に関連する概念及び理論 3)看護組織論、組織の変革理論	講義		
	4	看護政策管理学に関連する概念及び理論 4)組織運営の可視化と指標、組織分析	講義		
	5	看護政策管理学に関連する概念及び理論 5)エビデンスに基づくポリシーメイキング	講義	国内外の 研究成果 の探索と 精読	
	6   8	看護政策管理学研究に適用可能な方法論 1)データ収集に必要な面接法、参加観察 法、質問紙法 2)データ分析に必要な内容分析、多変量解 析	講義		
	9   10	組織運営のあり方の探求 1)看護実践現場における問題を検討する。 2)1)の問題解決に活用可能な看護政策管	演習		

		理学に関連する概念および理論を検討する。			
	11   14	組織運営のあり方の探求 3) 1)の問題の解決に向け、既習の知識や国内外の研究成果を用いて、看護サービス提供システムの開発・維持・変革および組織運営に関する方策を討議する。	演習	国内外の研究成果の活用	
	15	組織運営のあり方の探求 まとめ 4) 保健医療サービスの維持・向上に向けた組織運営のあり方について討議する。	演習		
	<p>■終了後のレポート課題『看護政策管理学特論を通して学んだこと』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一連の学習過程を踏まえ、保健医療サービスの質向上に向けた組織運営に焦点を当てて論述する。</li> </ul>				
評価方法	発表と資料（30%）、討議（30%）、終了後レポート（40%）				
参考書参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>Polit, D. F. &amp; Beck, C. T.: Nursing Research-Principles and Methods, 9<sup>th</sup> ed., Lippincott, 2011.</li> <li>津谷喜一郎編：ケーススタディから学ぶ医療政策—エビデンスからポリシーメーカーへ— ライフサイエンス出版, 2007, 東京.</li> <li>Diers, D.(小島通代他訳)：看護研究—ケアの場で行うための方法論—, 日本看護協会出版会, 1984.</li> <li>その他は、学習の進行に合わせて随時紹介する。</li> </ul>				
学習相談助言体制	学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。				
備考					

科目区分	専門科目	聴講	不可		
授業科目名	看護教育学特論	科目履修	可		
科目番号	DN0003	クラス番号	DN1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次・2年次 前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘				
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、看護学教育の中核を担う大学教員として質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、看護教育学特論を提供する。</p> <p>看護教育学特論を通し、学生は、看護学教育及び看護教育学に関する知識・理論と看護教育学研究の方法論の理解を深める。また、看護教育学教員が国内外で実施する看護職者・看護学生の発達支援のための教育・研究活動を参加観察し、それに基づき看護教育学の意義や特徴、看護教育学研究の方法論に対する理解を深める。具体的には、学生は、質の高い看護の提供を実現するために展開される看護職者・看護学生の発達支援のための教育活動や研究活動を参加観察し、観察した内容の分析により、看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度を検討する。この検討を通して学生は、看護教育学の学問としての位置づけ、および意義、特徴を理解する。</p>				
学 科 目 的	看護学教育及び看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度を検討することを通して、看護教育学の学問としての位置づけ、および意義、特徴を理解する。				
学 科 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学教育及び看護教育学に関する知識・理論を理解する。</li> <li>2. 看護教育学研究を遂行するために必要な研究方法論に関する知識を理解する。</li> <li>3. 看護教育学教員が国内外で実施する看護職者・看護学生の発達支援のための教育・研究活動を参加観察する。</li> <li>4. 観察した内容の分析を通し、看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度を検討する。</li> <li>5. 1. 2. 3. 4. を通して、看護教育学の学問としての位置づけ、および意義、特徴を理解する。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	看護教育学体系化への道程① 1) 看護学教育の現状 (1) 看護教育制度論	講義	・看護学教育に関連する国内外の文献の精読	松田
	2	看護教育学体系化への道程② 1) 看護学教育の現状 (2) 看護教育課程論	講義		
	3	看護教育学体系化への道程③ 1) 看護学教育の現状 (3) 看護学教育組織運営論	講義		
	4	看護教育学体系化への道程④ 2) 看護教育学の意義と課題 (1) 看護教育学の意義と特徴 (2) 看護教育学の課題	講義		
	5	看護教育学研究に用いられる方法論① 基盤研究	講義	・関連する方法論を用いた文献の精読	
	6	看護教育学研究に用いられる方法論② 応用研究	講義		

授業の内容と方法	7	看護教育学研究に用いられる方法論③ 統合研究	講義		松田
	8	1) 各自の学習計画立案 ・各自の経験を分析し、授業の目的達成に向けて克服すべき学習課題を設定し、学習計画を立案する。	演習	・立案した学習計画の提出	
	9   13	2) 個々の学習計画に基づく活動の展開 ・具体的には、次のような活動である。 ア. 看護教育学教員が展開する看護基礎教育、卒後教育、継続教育の教育活動、アフターセッションに参加し、どのように看護学教育が展開されるのかを観察する。 イ. 看護教育学教員による国内・海外学会での研究発表に参加し、研究成果の公表に向けてどのような活動を展開しているのかを観察する。 ウ. 海外の研究者と共同して実施する看護教育学教員の研究活動に参加し、文化や言語の異なる研究者とどのように共同し、遂行するのかを観察する。	演習	・学習計画に基づく学習活動の展開 ・分析結果の整理とまとめ	
	14	3) 発表準備 ・各自、観察した内容の分析により、看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度を明確化する。	演習		
	15	4) 各自の学習成果発表と討議 まとめ ・看護教育学の学問としての位置づけ、および意義、特徴	演習 (発表・討議)		
<p>■終了後レポートの課題『看護教育学特論を通して学んだこと』 一連の学習を踏まえ、看護教育学の学問としての位置づけ、および意義、特徴とともに看護教育学を学ぶ上での自己の課題を論述する。</p>					
評価方法	学習計画の立案内容と遂行状況 (30%)、成果発表・討議 (30%)、終了後レポート(40%)				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉森みど里, 舟島なをみ: 看護教育学 第5版増補版, 医学書院, 2014.</li> <li>・舟島なをみ: 看護教育学研究—発見・創造・証明の過程—, 第2版, 医学書院, 2010.</li> <li>・舟島なをみ監修: 看護実践・教育のための測定用具ファイル—開発過程から活用の実際まで—, 第3版, 医学書院, 2015.</li> <li>・舟島なをみ監修: 看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて, 医学書院, 2013.</li> <li>・Polit, D. F. &amp; Beck, C. T.: Nursing Research-Principles and Methods, 9th ed., Lippincott, 2011.</li> <li>・Diers, D.(小島通代他訳): 看護研究—ケアの場で行うための方法論—, 日本看護協会出版会, 1984.</li> </ul>				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。				
備考					

科目区分	専門科目	聴講	不可		
授業科目名	実践看護学特論	科目履修	可		
科目番号	DN0004	クラス番号	DN1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次・2年次 前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	齋藤基	その他			
担当教員	齋藤基 行田智子 中西陽子 石川良樹 宮崎有紀子 高井ゆかり 廣瀬規代美 大澤真奈美 飯田苗恵 狩野太郎				
授業の概要	<p>本研究科は、看護実践に役立つ専門性の高い知識を産出するとともに、それを他の看護職者へ普及し、質の高い看護の提供を実現するために必要な科目として、実践看護学特論を提供する。</p> <p>科学的根拠に基づいた実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現とその普及に向け、質の高い看護実践を促進するために活用可能な基盤となる知識と自らが産出した研究成果を用いて、その研究成果の検証を通し、EBPとしての実践への適用を考察する。具体的には、学生は自己の修士論文およびその他の自己の研究論文の研究成果を用い、実践への適用を検証するために必要な国内および海外文献を探索・精読する。また、検証方法論の検討を行い、検証計画を立案し、プレゼンテーションを行う。学生が提示した研究論文の方法および内容等に精通した教員の支援・助言を受けながら、自らが産出した研究成果の実践への適用を検証する。</p> <p>このことを通し、EBPの実現に向け、看護学を充実・発展・革新させていく必要性を理解するとともに、より質の高い看護実践の知識・技術の普及が重要であることを理解する。</p>				
学 科 目 的	科学的根拠に基づいた実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向け、質の高い看護実践を促進するために活用可能な基盤となる知識と自己の研究成果を用いて、実践への適用を考察する。				
学 科 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究成果の実践への適用と普及に活用可能な基盤となる知識を理解する。</li> <li>2. 研究成果の実践への適用を検証するための文献を探索・精読する。</li> <li>3. 研究成果の実践への適用を検証するための方法論を探索する。</li> <li>4. 研究成果の実践への適用を検証するための計画書を作成し、発表・討議する。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	研究成果の実践への適用と検証の意義 1) ロジャーズのイノベーション普及理論 2) EBPに基づく実践の検証意義	講義		齋藤
	2	実践看護学に関連する概念及び理論① 1) 看護実践に関連する主要概念 ヘルスプロモーション、ソーシャルサポート 2) 看護実践に活用可能な理論 発達理論、コミュニケーション理論	講義		齋藤
	3	実践看護学に関連する概念及び理論② 1) 看護実践におけるアドボカシー 2) 看護実践とケアの倫理	講義		齋藤
	4	看護実践への適用に向けた修士論文・研究論文の成果 1) プレゼンテーション 2) ディスカッション	演習 (発表・討議)	・発表の準備	齋藤 学生が実施した研究の方法や内容を熟知した教員

	5	検証計画立案のための研究方法論検討① 1) 量的研究方法論を用いるためのデータ 収集方法（質問紙法など） 2) 量的研究方法論を用いるためのデータ 分析方法（記述統計、多変量解析など）	講 義		宮崎 狩野
	6	検証計画立案のための研究方法論検討② 1) 質的研究方法論を用いるためのデータ 収集方法（面接法、参加観察法、質問 紙法など） 2) 質的研究方法論を用いるためのデータ 分析方法（内容分析、M-GTA など）	講 義		中西 廣瀬 高井
	7	検証計画立案のための研究方法論検討③ 1) 混合（量・質）研究方法論 2) 尺度開発	講 義		齋藤 行田 高井
	8	検証計画立案のための研究方法論検討④ 1) 実験・準実験研究方法論 2) 生物生理学的機能の測定と分析	講 義		石川
	9   10	研究成果の実践適用検証のための国内・ 海外文献の理解	演 習	・検証計画 作成の関 連文献の 精読	学生が実施 した研究の 方法や内容 を熟知した 教員
	11	検証計画立案のための方法論探索 1) プレゼンテーション 2) ディスカッション	演 習 (発表・討 議)	・討議資料 の作成	齋藤 学生が実施 した研究の 方法や内容 を熟知した 教員
	12   13	検証計画立案	演 習	・検証計画 書の作成	学生が実施 した研究の 方法や内容 を熟知した 教員
	14	検証計画書の発表・討議 ・和文または英文での検証計画プレゼン テーションの実施	演 習 (発表・討 議)	・発表の準 備	齋藤 学生が実施 した研究の 方法や内容 を熟知した 教員
	15	13) まとめ ・EBP と質の高い看護実践 ・研究成果の実践適用検証と看護の機能 の発展	演 習 (発表・討 議)	・討議資料 の作成	学生が実施 した研究の 方法や内容 を熟知した 教員
評 価 方 法	発表（30%）、討議（30%）、検証計画書（40%）				
参 考 書 参 考 文 献 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Polit, D. F. &amp; Beck, C. T.: Nursing Research-Principles and Methods, 9<sup>th</sup> ed., Lippincott, 2011.</li> <li>・その他は、学習の進行に合わせて随時紹介する。</li> </ul>				
学 習 相 談 助 言 体 制	学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。				
備 考					



科目区分	専門科目	聴講	不可		
授業科目名	看護専門職の役割と責務	科目履修	可		
科目番号	DN0005	クラス番号	DN1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・2年次 前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	巴山玉蓮	その他			
担当教員	巴山玉蓮 齋藤基 行田智子 中西陽子 松田安弘 山下暢子 石川良樹 宮崎有紀子 高井ゆかり 大澤真奈美 飯田苗恵				
授業の概要	<p>本研究科は、様々な地域で生活する人々の生涯にわたる健康水準の維持、向上に向けて看護学を充実・発展・革新し続けることに価値を認めることのできる人材育成に必要な科目として、看護専門職の役割と責務を提供する。</p> <p>社会環境の変化に対応した看護の提供に向けては、看護専門職としての役割と責務および職業的自律性について熟考することが求められる。そのため、この科目の履修を通して、人々の尊厳と自律性を尊重したケアについて多面的に検討し、新しい知見を探究することによって、看護学の充実・発展・革新を牽引していく必要性を理解する。具体的には、フィールドワークを通して、人々の健康水準の維持、向上の支援のために、他の学問領域の知識や理論を看護学へ適用するなど、看護の知識・技術の発展を多面的に検討できる能力を修得する。</p>				
学 科 目 的	社会環境の変化に応じた看護専門職の役割と責務および職業的自律性について検討し、看護学を充実・発展・革新させるため、人々の尊厳と自律性を尊重したケアを多面的に検討し、新しい知見を探究する。				
学 科 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護専門職の役割と責務および職業的自律性について説明する。</li> <li>2. 人々の尊厳と自律性を尊重したケアについて多面的に検討する。</li> <li>3. 看護学の充実・発展・革新を牽引していくために、新しい知見を探究する。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1	ガイダンス 1) 看護専門職の役割と責務、職業的自律性について討議する。	講義 演習 (討議)	自らの課題を明確化する	巴山
	2	2) 人々の尊厳と自律性を尊重したケアについて討議する。	講義 演習 (討議)		巴山
	3   8	3) 自部署の事例を基に、看護の対象に対する尊厳と自律性を尊重したケアについて考察する。 4) 3)を基に、看護学へ適用可能な他の学問領域の知識や理論について検討する。 5) 看護実践現場において、4)で検討した他の学問領域の知識や理論の活用可能性について討議する。 6) 討議した内容を実現するためにフィールドワークを計画し、実施・評価する。 ・関連する知識や理論について文献検討を行う。 ・フィールドワークの実施計画を立案する。	演習	・演習(フィールドワーク)の計画書作成 ・フィールド先との調整	巴山 松田 山下 齋藤 行田 中西 石川 大澤 飯田 宮崎 高井
	9	7) フィールドワークの計画発表を行う。	演習 (発表・討議)		

	10   14	8) フィールドワークを実施する。 ・フィールドに実施内容を説明し、理解を得る。	演習 (フィールドワーク)		
	15	9) フィールドワークの成果発表を行う。 10) 他の学問領域の知識や理論を看護学へ適用することや、看護の知識・技術の発展を多面的に検討することを通して、看護の新しい知見を見出す意義について討議する。	演習 (発表・討議)		
<p>■ 終了後レポートの課題『看護専門職の役割と責務を通して学んだこと』 フィールドワークを通して得た知識や理論を基に、看護学の充実・発展・革新を牽引していくために、新しい知見を探求する意義について論述する。</p>					
価 方 法	発表と資料 (30%)、討議 (30%)、終了後レポート (40%)				
参 考 書 参 考 文 献 等	学習の進行に合わせて随時紹介する				
学 習 相 談 助 言 体 制	学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。				
備 考					

科目区分	専門科目	聴講	不可		
授業科目名	倫理学特別演習	科目履修	可		
科目番号	DN0006	クラス番号	DN1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	中西陽子	その他			
担当教員	中西陽子 山下暢子 石川良樹				
授業の概要	<p>本研究科は、様々な地域で生活する人々の生涯にわたる健康水準の維持、向上に向けて看護学を充実・発展・革新し続けることの価値を認めるために必要な科目として、倫理学特別演習を提供する。</p> <p>倫理学特別演習を通し、学生は、科学的根拠に基づいた保健医療の実践および教育の根拠となりうる研究成果を産出する過程において必要となる倫理的態度を理解する。具体的には、保健医療の実践・教育の現場および研究過程において、特に保健医療専門職者が直面する倫理的問題を確認し、文化あるいは諸科学との関連も含めながら、倫理的課題の解決・回避に必要な知識・技術を修得する。また、社会的に問題となっている研究倫理に関する事例を取り上げ、倫理的側面から多角的に考察を行い、研究における倫理的感受性を高める必要性を理解する。</p>				
学 科 目 的	保健医療の実践・教育・研究において生じやすい倫理的問題を考察し、その問題の解決・回避に必要な知識、技術を修得する。これを通し、研究過程において倫理的感受性を継続的に高めることの必要性を認識する。				
学 科 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療の実践および教育の現場における倫理的問題を、倫理学の知識を用いて考察する。</li> <li>2. 研究対象者への倫理的配慮の実際と必要な手続きを述べる。</li> <li>3. 社会的に問題となっている研究倫理の事例について検討し、文化や諸科学との関連を含めて倫理的問題を考察する。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後 学習（学習 課題）	担当
	1 ・ 2	ガイダンス 1) 医療と倫理	講義		中西
	3	2) 倫理的問題の事例提供① ・学生個々が保健医療の実践・教育の場 および研究過程において直面する倫理 的な問題事例を提供する。	演習 (事例①発表)	・倫理的問題 事例の 準備およ び討議資 料の作成	中西 山下 石川
	4   6	3) 倫理的問題の検討 ・事例の倫理的問題を考察する。 ・問題解決の方策を倫理的観点から考察 する。	演習 (グループワーク)		
	7	4) 倫理的問題の事例提供② ・学生個々が保健医療の実践・教育の場 および研究過程において直面する倫理 的な問題事例を提供する。	演習 (事例②発表)		
	8   10	5) 倫理的問題の検討 ・事例の倫理的問題を考察する。 ・問題解決の方策を倫理的観点から考察 する。	演習 (グループワーク)		
	11 	6) 保健医療専門職が直面する倫理的問題 の特徴とその対策	講義		

	13			
	14 15	7) 研究者と倫理 ・社会的に問題となっている研究倫理の事例について検討する。	演習 (発表・討議)	・研究倫理事例に関する情報収集
	<p>■終了後レポートの課題『倫理学特別演習を通して学んだこと』 保健医療専門職者として実践・教育・研究における倫理的観点から、自己の課題を論述する。</p>			
評価方法	発表（20%）、討議（40%）、終了後レポート（40%）			
参考書 参考文献等				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。			
備考				

科目区分	専門科目	聴講	不可																															
授業科目名	プレFD特別演習（大学教員としての基礎）	科目履修	可																															
科目番号	DN0007	クラス番号	DN1																															
授業形式	演習	必修選択区分	選択																															
開講時期	1年次・2年次 前期	単位	2単位 30時間																															
科目責任者	山下暢子	その他																																
担当教員	山下暢子 齋藤基 松田安弘																																	
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、看護学教育の中核を担う大学教員として質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、プレFD特別演習（大学教員としての基礎）を提供する。</p> <p>特別演習（大学教員としての基礎）を通し、学生は、大学教員としての役割をより良く果たすための基礎知識として、大学教員の役割に関する知識とともに、授業の設計・展開・評価に必要な知識と技術を修得する。具体的には、まず学生は、大学教員の役割に関する知識、授業の設計・展開・評価に関する知識と技術を学習する。また、学習した知識・技術を活用し、担当教員の支援・助言を受けながら仮想大学看護学部の授業を設計し、模擬授業として実際に展開し、評価する。</p>																																	
学科学目的	大学教員としての役割をより良く果たすための基礎知識として、大学教員の役割に関する知識とともに、授業の設計・展開・評価に必要な知識と技術を修得する。																																	
学科学目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学教員の役割を具体的に理解する。</li> <li>2. 授業の設計・展開・評価に必要な知識・技術を修得する。</li> <li>3. 2.の知識・技術を活用して、仮想大学看護学部の授業計画案を立案する。</li> <li>4. 3.の授業計画案を模擬授業として実際に展開する。</li> <li>5. 大学教員の役割遂行という観点から、自己の課題を論述する。</li> </ol>																																	
授業の内容と方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業形態</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>講義</td> <td></td> <td>山下</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1) 大学教員の役割 ・看護学研究科教員2名が自身の教育・研究・組織運営・社会サービスの実際をプレゼンする</td> <td>講義</td> <td></td> <td>担当教員2名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2) 教育役割遂行のための基礎知識1 ・第1章 授業とは何か</td> <td rowspan="3">演習 (発表・討議)</td> <td rowspan="7">・課題図書『看護学教育における授業展開質の高い講義・演習・実習の実現に向けて』の精読と要約</td> <td rowspan="7">山下</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3) 教育役割遂行のための基礎知識2 ・第2章 授業展開のための基礎知識</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4) 教育役割遂行のための基礎知識3 ・第3章 看護学の授業に臨む学生と教員の理解－看護基礎教育に着眼して－</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5) 教育役割遂行のための基礎知識4 ・第4章 看護学の講義と教授活動・学習活動</td> <td rowspan="2">演習 (グループワーク)</td> <td rowspan="2">松田</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6) 教育役割遂行のための基礎知識5 ・第5章 看護学の演習と教授活動・学習活動</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当	1	ガイダンス	講義		山下	2	1) 大学教員の役割 ・看護学研究科教員2名が自身の教育・研究・組織運営・社会サービスの実際をプレゼンする	講義		担当教員2名	3	2) 教育役割遂行のための基礎知識1 ・第1章 授業とは何か	演習 (発表・討議)	・課題図書『看護学教育における授業展開質の高い講義・演習・実習の実現に向けて』の精読と要約	山下	4	3) 教育役割遂行のための基礎知識2 ・第2章 授業展開のための基礎知識	5	4) 教育役割遂行のための基礎知識3 ・第3章 看護学の授業に臨む学生と教員の理解－看護基礎教育に着眼して－	6	5) 教育役割遂行のための基礎知識4 ・第4章 看護学の講義と教授活動・学習活動	演習 (グループワーク)	松田	7	6) 教育役割遂行のための基礎知識5 ・第5章 看護学の演習と教授活動・学習活動
回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当																														
1	ガイダンス	講義		山下																														
2	1) 大学教員の役割 ・看護学研究科教員2名が自身の教育・研究・組織運営・社会サービスの実際をプレゼンする	講義		担当教員2名																														
3	2) 教育役割遂行のための基礎知識1 ・第1章 授業とは何か	演習 (発表・討議)	・課題図書『看護学教育における授業展開質の高い講義・演習・実習の実現に向けて』の精読と要約	山下																														
4	3) 教育役割遂行のための基礎知識2 ・第2章 授業展開のための基礎知識																																	
5	4) 教育役割遂行のための基礎知識3 ・第3章 看護学の授業に臨む学生と教員の理解－看護基礎教育に着眼して－																																	
6	5) 教育役割遂行のための基礎知識4 ・第4章 看護学の講義と教授活動・学習活動	演習 (グループワーク)			松田																													
7	6) 教育役割遂行のための基礎知識5 ・第5章 看護学の演習と教授活動・学習活動																																	

	8	7)教育役割遂行のための基礎知識6 ・第6章 看護学実習と教授活動・学習活動			
	9	8)授業の設計 step 1, 2		・仮想大学看護学部の授業計画案立案	山下松田
	10	9)授業の設計 step 3, 4			
	11	10)中間発表	演習 (発表・討議)	・中間発表用の資料作成	
	12	11)授業の設計 step 3, 4	演習 (グループワーク)	・仮想大学看護学部の授業計画案立案・授業の準備	
	13	12)授業の設計 step 3, 4			
	14	13)模擬授業の実施と評価	演習 (発表・討議)	・立案した計画案に基づく模擬授業の実施と評価	山下松田
	15	まとめ 14)大学教育の現在と未来、各自の課題	講義	・各自の課題を検討と言語化	松田
	<p>■終了後レポートの課題：『プレ FD 特別演習（大学教員としての基礎）を通して学んだこと』 大学教員としての役割遂行の意義と役割遂行に向けた自己の課題を論述する。</p>				
評価方法	グループワークの参加状況（20%）、成果発表・模擬授業（40%）、終了後レポート(40%)				
参考書 参考文献等	・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院，2013.				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。				
備考					

科目区分	特別研究	聴講	不可
授業科目名	特別研究Ⅱ	科目履修	不可
科目番号	DN0008	クラス番号	DN1
授業形式	演習	必修選択区分	必修
開講時期	1年次～3年次 通年	単位	6単位 180時間
科目責任者	齋藤基	その他	
担当教員	齋藤基 横山京子 中西陽子 巴山玉蓮 松田安弘 山下暢子 石川良樹 宮崎有紀子 高井ゆかり 廣瀬規代美 大澤真奈美 飯田苗恵 狩野太郎		
授業の概要	<p>本研究科は、より専門的な観点から看護学の充実・発展・革新に資する研究成果（エビデンス）を産出することのできる人材育成に必要な科目として、特別研究Ⅱを提供する。</p> <p>特別研究Ⅱを通し、学生は、質の高い看護実践、質の高い看護学教育あるいは優れた看護政策管理という観点から、実践の根拠となりうる研究成果の産出を試みる。具体的には、個々の興味・関心に従い累積した学習成果を活用し、研究課題の焦点化、研究方法論の決定を行い、研究計画書を作成する。研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表、評価に至るまでの一連の研究過程を通し、看護学研究成果を産出・蓄積する意義を認める。また、研究者として自立して研究活動を行い、専門的な業務に従事するために必要な研究能力と看護専門職としての研究的態度を修得する。</p> <p>（齋藤基） 看護実践に関する研究課題を選択した学生のうち、地域保健活動、在宅看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。</p> <p>■主な研究課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)生活習慣病の保健指導に関する研究</li> <li>(2)家族介護者の介護行動に関する研究</li> <li>(3)地域看護活動における実践課題に関する研究</li> </ol> <p>（巴山玉蓮） 看護政策管理に関する研究課題を選択した学生のうち、組織の管理・運営、看護職が働く場の環境整備に関する研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。</p> <p>■主な研究課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)看護職の意思決定に関する研究</li> <li>(2)看護職のワーク・ライフ・バランスに関する研究</li> <li>(3)潜在看護師の再就業に関する研究</li> </ol> <p>（松田安弘） 看護教育に関する研究課題を選択した学生のうち、看護継続教育、「教授＝学習過程」、看護における少数者に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。</p> <p>■主な研究課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)看護における少数者に関する研究</li> <li>(2)院内教育に関する研究</li> <li>(3)教員の教授活動に関する研究</li> <li>(4)学生の学習活動に関する研究</li> </ol> <p>（山下暢子） 看護教育に関する研究課題を選択した学生のうち、看護基礎教育・継続教育、主に看護学実習に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。</p> <p>■主な研究課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)看護学実習中の学習活動に関する研究</li> <li>(2)看護学実習中の教授活動に関する研究</li> </ol>		

	<p>(石川良樹) 看護実践に関する研究課題を選択した学生のうち、ロコモティブシンドローム等の運動機能の改善に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。</p> <p>■主な研究課題 (1)運動刺激、外部刺激による筋組織、筋蛋白質の機能・発現回復に関する研究 (2)運動刺激、外部刺激による神経と筋肉の接合部再形成に関する研究</p> <p>(宮崎有紀子) 看護実践に関する研究課題を選択した学生のうち、ヘルスプロモーション、健康づくり支援活動に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。</p> <p>■主な研究課題 (1)生活習慣および保健行動に関する研究 (2)生活習慣要因と健康に関する研究</p> <p>(高井ゆかり) 看護実践に関する研究課題を選択した学生のうち、老年看護活動や疼痛管理に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。</p> <p>■主な研究課題 (1)疼痛管理の実態およびシステム構築に関する研究 (2)認知症高齢者とその家族員の経験探索に関する研究 (3)多様な場で展開される高齢者へのケアの質向上に関する研究</p>
学 科 目 的	研究課題の焦点化、データの収集・分析、論文作成、発表、評価に至る一連の研究過程を経験する。
学 科 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 焦点化した研究課題の背景を述べる。</li> <li>2. 研究目的・目標に合致した研究方法論を選択する。</li> <li>3. 文献検討の結果に基づき、精度の高い研究計画書を作成する。</li> <li>4. 既存の研究方法論を正確に適用し、データを収集・分析する。</li> <li>5. 倫理的配慮に基づき、データを収集・分析する。</li> <li>6. 構成要素に沿って研究論文を作成する。</li> <li>7. 研究の概要を簡潔に説明する。</li> <li>8. 看護専門職に必要な研究的態度を述べる。</li> <li>9. 看護学研究の成果を産出・蓄積する意義を述べる。</li> </ol>



	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
授業の内容と方法	1   30	<b>【1年次前期】</b> 1) 関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。 <b>【1年次後期】</b> 2) 研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を完成する。	演習	・研究課題の明確化 ・文献検討 ・研究計画書の作成	研究指導教員 および 研究指導補助教員
	31   60	<b>【2年次前期】</b> ● <u>研究計画審査</u> ● <u>倫理審査</u> 3) 研究科委員会が承認した研究科教授4名（研究指導教授1名を含む）による研究計画審査を受ける。 4) 倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 5) 倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。 <b>【2年次後期】</b> 6) 研究計画書に基づき、データを収集・分析する。 7) データ収集・分析の適切性を評価する。	演習		
	61   90	<b>【3年次前期】</b> ● <u>博士論文審査願および題目提出</u> 8) 結果・考察および結論の論述を行う。 <b>【3年次後期】</b> ● <u>博士論文予備審査(10月)</u> ● <u>博士論文審査(12月)</u> ● <u>公開論文発表会(2月)</u> 9) 研究科委員会が承認した研究科教授3名（研究指導教授を含まない）による論文予備審査および論文審査を受ける。 10) 最終試験として、公開論文発表会の発表および質疑応答を行う。	演習	・データ収集・分析 ・結果・考察の論述 ・結論の論述 ・博士論文予備審査準備 ・博士論文審査準備 ・公開論文発表会準備	
	90回/3年のゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う。				
評価方法	学科目標の達成状況（100%）： 研究計画書の作成、研究遂行、論文作成の状況と、研究計画書審査、博士論文予備審査、博士論文審査、公開論文発表会の発表および質疑応答の状況に基づき、学科目標の達成状況を判断する。				
参考書 参考文献等					
学習相談 助言体制	・研究指導教員および研究指導補助教員は、ゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う。 また、学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。 ・研究指導教員は、必要に応じて、共通科目の担当教員、あるいは、研究課題に関連する分野の専門家から、研究遂行に向けた助言を得られるよう支援する。				
備考	<b>【14条適用の学生が職場においてデータを収集する場合の倫理的配慮】</b> 1. 職場である保健医療機関、教育機関の責任者からデータ収集許可文書を得る。 2. 1. の文書を含め、倫理委員会に必要書類を提出し、研究計画書の承認を得る。				